

地域創生総合支援事業(サポート事業)成果発表

湯本を本気で遊ぶ プロジェクト

令和4年度「湯本駅前市有地暫定利活用と社会実験」
令和5年度「図書館社会実験とまちづくり人材育成」



プロジェクト立ち上げの背景

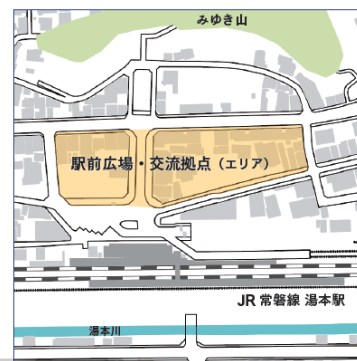
◆常磐地区市街地再整備事業計画

常磐地区では湯本駅前の公共施設の再編・集約と民間商業施設の併設される観光交流拠点整備を含む常磐地区市街地再整備事業計画が進められており、公民連携事業が始まろうとしています。

◆「あとち」暫定利活用

その事業用地の一部として使用される予定の市営住宅天王崎団地の跡地（1080㎡）を約3年間、暫定的に利活用するため、じょうばん街工房21はいわき市と基本協定を結び、市と連携して「あとち広場」と「あとち集会所」を整備し、管理運営を行っていくこととなっています

駅前は大々再開発。支所と図書館が移転してきて温泉施設と合体、次世代モビリティを取り入れた新しいロータリーも設置。



217 x 210 mm



温泉街・湯本の玄関口。

駅前広場は、みんなで共有するマイプレイスの集合体

このまちへ来たばかりの人には、宿泊先へのチェックインと手荷物あずかり、観光案内を。

帰りの電車待つ観光客には、湯本ならではの土産を。

よちよち歩きの子どものには、転んでも痛くない人工芝を。

放課後におしゃべりしたい高校生には、テイクアウトコーヒーとスイーツを。

浴衣とアロハシャツで歩くカップルには、温泉地らしい雰囲気。

みんなが過ごしたいように過ごせる場所が、未来の湯本には必要です。

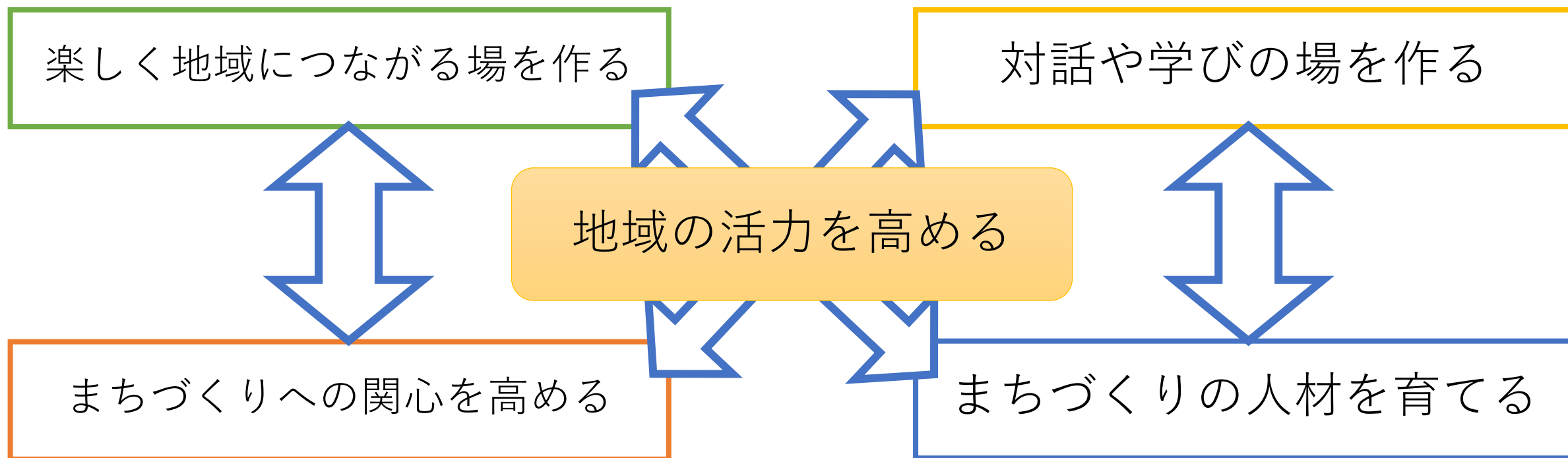


プロジェクトの目的

街が大きく変わっていく転換期にある常磐地区で、持続可能なより良いまちづくりを進めるためには、民間の活力を高め、行政しっかりと連携していくことが重要です。

このプロジェクトの目的は、地域の人々のまちづくりへの関心を高め、対話を促し、パブリックマインドをもってまちづくりに積極的に関わる人材を育てることです。

また、将来的には地域課題を解決する事業や活動の創出につなげ、持続可能な仕組みで街の活力を高めていきます。



プロジェクトの目的

このプロジェクトは豊かなまちを創っていくために欠かせない「人」に焦点をあて、継続的に街の活力を高めていく好循環を作ること为目的としています。

具体的には、以下のような目的のために「しくみづくり」「人材育成」「社会実験」「情報発信」という4つの観点から、さまざまな事業を実施します。

- ・ 地域の人々のまちづくりへの関心を高める
- ・ 市街地再生に関する地域の人々の意見抽出や機運醸成を行う
- ・ 地域の人々に立場や年代を超えた対話を促す
- ・ 地域の活動に参加する人増やす
- ・ 豊かな公共空間を自ら創り育てていく意識を醸成する
- ・ 個々のプレイヤーのネットワークをつくる
- ・ 未来を担う若い世代の、地域への愛着と実践する力をはぐくむ
- ・ 地域課題を解決する事業や活動をあたらしく生み出す人材を育てる

芝張りワークショップ (R.4 10.22)

大人約35名、子供約15名が参加した

公共空間を楽しみながら自分たちの手で作っていくことで、愛着を持ってもらい、地域活動への関心を高めることができた





あとち広場の あそび場づくり

土管（ヒューム管）の設置

広場のシンボリックな存在になり“土管広場”と呼ばれるように

子供たちの遊び場として

コスプレイヤーなど観光客の写真スポットにも

ハンモックの設置

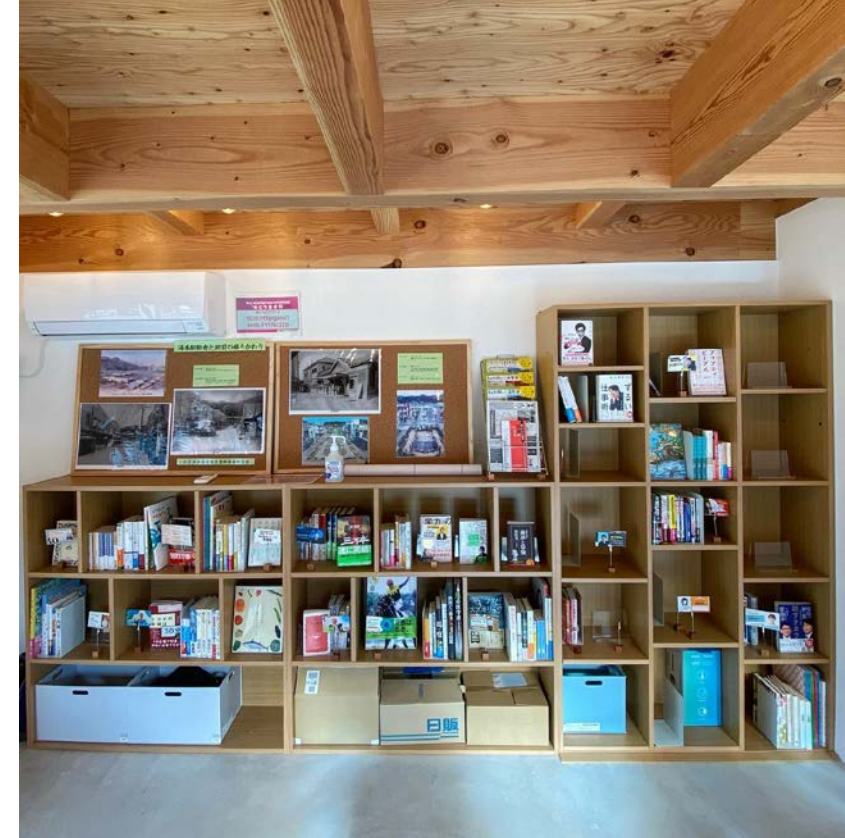
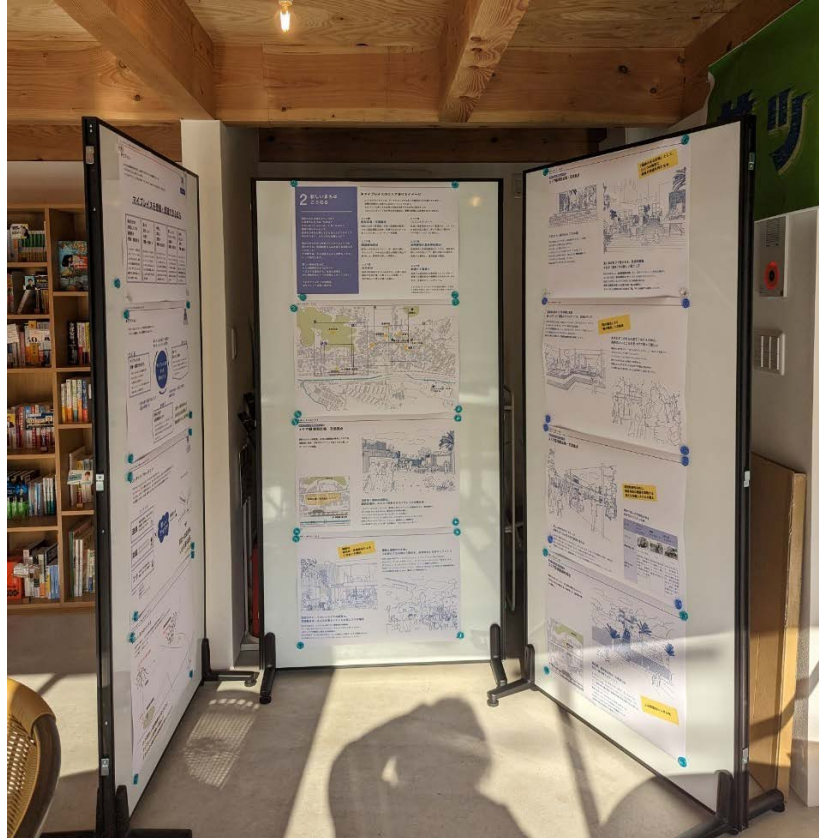
ゆっくり休む場所

図書を読む場所

小さな子供たちを遊ばせる場所として



その他、テントやごみ箱などもイベント時に活用しています。



図書スペースと フューチャーセン ターの整備

- 図書スペースは皆で作りに上げていくというコンセプトで「本のない図書館」としてオープン
- 「フューチャーセンター」まちづくりの情報拠点として、ビジョンブックの展示や、まちづくり関連資料、まちづくり系図書を設置

いわきゆかりの著名人 による選書

いわき市長はじめ、芸能界や経済界など
様々な分野から、いわきに所縁のある方に
選書していただきました

<選書していただいた方（敬称略・順不同）>

内田広之（いわき市長）、西澤順一（常磐興産（株）社長）、株式会社マルト（寄贈）、村西とおる（映像監督）、ブリドカットセーラ恵美（声優）、小平和道（JRA競走馬リハビリテーションセンター所長）、権丈泰巳（自転車文化発信交流拠点 ノレル?ディレクター）、佐久間宣行（テレビプロデューサー）、庄司秀樹（東洋システム社長）、富田望生（女優）、皆川猿時（俳優）、井上直美（いわき観光まちづくりビューロー会長）、佐藤玲奈（アナウンサー）、服部樹理（いわき市教育長）、武山忠弘（いわき市総合図書館館長）、小野紗由里（アナウンサー）、あかつ（芸人）、小野栄重（いわき商工会議所会頭）、常盤峻士（ときわ会グループ会長）池田速人（元アナウンサー・福島放送いわき支社長）



サッカーまんが 図書館

J2いわきFCホームタウンであることから、「サッカーまんが図書館」として人気ランキング上位のサッカー漫画を全巻設置

R.5年3月26日にいわきFCのホームゲームに合わせて「サッカーまんが図書館」オープン

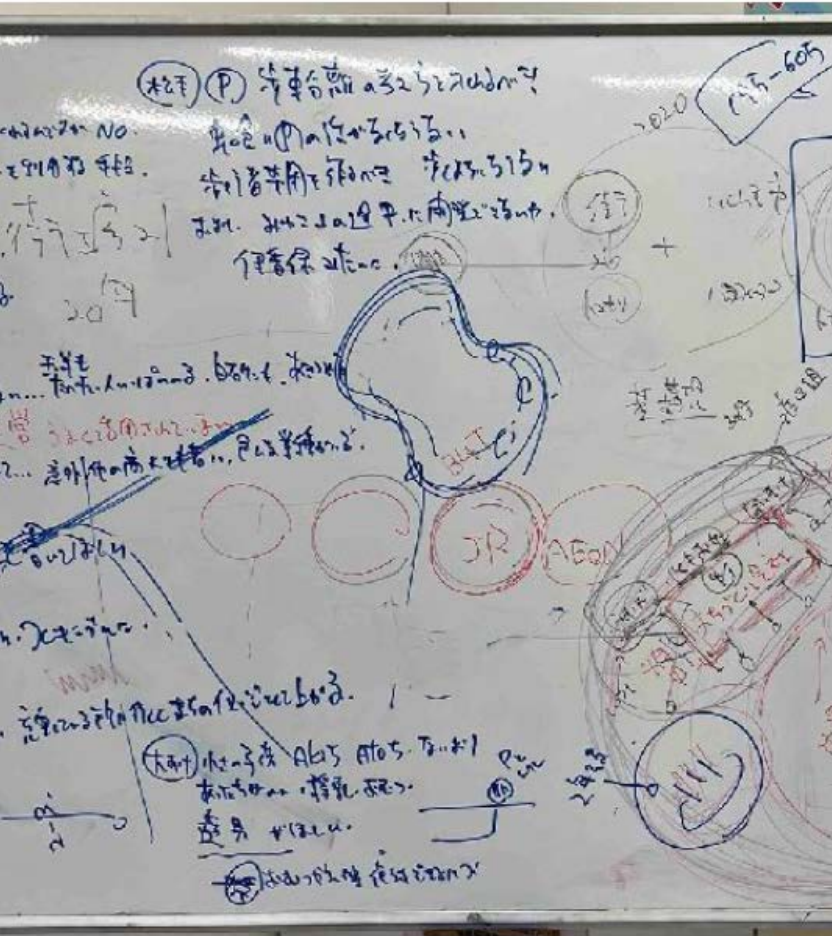
こどもの「あとち」利用者が格段に増えました



DIYワーク ショップ

- 親子で参加できる、ハロウィンランタンづくりワークショップを開催し、作品をあとち集会所に展示
- 2月～3月には第2弾として高校生を対象とした屋台づくりワークショップを予定している





まちづくりワークショップ

ファシリテーターは『いわき湯本温泉ブランド化作戦会議』の座長を務めるトコナツ歩兵団 渡辺祐介氏

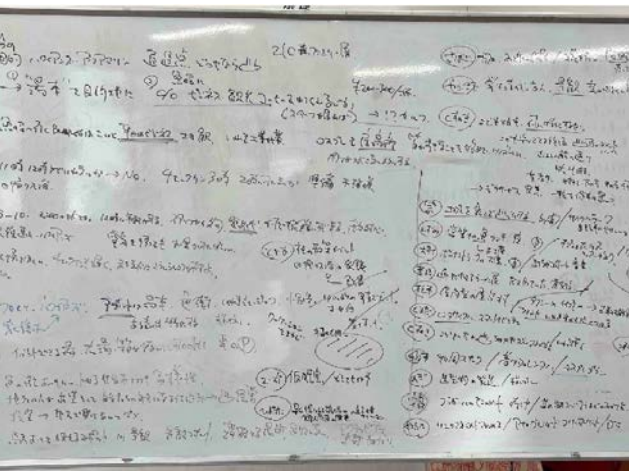
まちづくりに関わっている若い世代を中心に15名が参加

R.4年度は

「お客様を迎える旅館としてどうかんがえるか」「湯本には何が必要か?」「湯本でやるならこんなビジネス」の3つのテーマでディスカッションしました

R.5年度は

温浴施設にテーマを絞って、アイデア出しをしたり、具体的な公民連携手法や事業の作り方を学んでいます。



まちづくり勉強会

R.4年度は6回、R.5年度は7回の計13回開催

ファシリテーターはNPO法人TATAKIAGE
Japanの松本文氏

事前に課題図書を読み込んできてレポートを
提出し、当日はディスカッションするという
「読書会」形式を基本

その他、中之作での移動講座やGuesthouse
Haceでの意見交換会、テーマを設けたディ
スカッションなどのプログラムを開催

民間、行政両方の立場から計26人が参加





未来の図書館まなび のプログラム

図書館プロデューサーの岡本真氏（アカデミックリソースガイド株式会社）のコーディネートで八戸市、紫波町、恩納村と3か所を視察

各所で7か所の図書施設を含むさまざまな形の公民複合施設などを見学

3ヵ所に対して、それぞれ事前研修・事後研修の2回を開催

さらにワークショップ、シンポジウムを開催し、湯本駅前にふさわしい複合図書館のあるべき姿を模索し、観光交流視察の提言へつなげます

※視察の旅費は参加者の自己負担で実施しました



かわら版

本事業を中心にまちづくりの情報発信やイベントの告知、街の人の声などを掲載したかわら版を発行

R.4年10月より月1回のペースで回覧板で常磐地区に全戸配布した

活動報告 【高校生との意見交換会】

6月17日にいわき青年会館の事業でいわき湯本高校の生徒さんたちの意見交換を行いました。常磐地区のまちづくりの経緯について説明した後、事前にお渡ししていた「新・いわき湯本温泉まちづくりビジョンブック」についての意見や、質問をいただきました。

参加した高校生からは、観光客が来るまちになるために「ほかの温泉地とどう差別化を図るのか」「ほかの街とは違う独自性はどうか」といった私たちも課題と感じている鋭い質問が出ました。また「温泉にもっと手軽に入れるように学習を作ったほうがいい」という意見や、「観光客60万人を目指しているのが温泉地だけでは達成できないのでは、アリーナなどでまずは集客を増やして、温泉の良さを知ってもらいリピーターになってもらうのがいい」といった、非常に参考になる意見もありました。これからの未来を担う若い世代との意見交換はとても新鮮で意義があると感じました。今後もこういった対話の場を積極的に開いていきたいと思います。



あとちトライアル募集開始

いわき市内の個人、事業主、団体等で、あとちを使ってみたいという方々に、じょうばん街工務21がサポートします。募集要項及びサポート内容は次のとおりです。

- ◆場所:あとち集会所・広場・スペース
- ◆募集日時:令和5年7月1日～令和5年11月30日まで
- ◆事業実施期間:令和5年7月1日～令和5年12月31日まで

【応募条件】

- ①いわき市内の個人、事業主、団体等であること。
- ②事業終了後にご意見やご感想を提出すること。

【サポート内容】

- ①1回日の利用料金(会場使用料)が無料。
 - ※備品貸し出しや諸費用に関しては実費がかかります
 - ②イベント開催にあたり不安があれば、じょうばん街工務21ができる限りアドバイスします。
- 利用できる条件は「事業終了後、じょうばん街工務21に、使用しての感想をお話ぐさください」のみ



あとち利用について
詳細はコチラ



あとちトライアルの
申し込み用紙はコチラ

このかわら版は「令和5年度福島県地域創生総合支援事業」採択事業「市営住宅天王崎団地跡地 暫定利活用プロジェクト」の啓発と関係しています。

まちづくりの手法を学び合う 「まちづくり勉強会」

課題図書を読んで感じたことを世代や立場を超えて意見交換する読書会形式の勉強会を開催しています。ファシリテーターは昨年度に引き続きタタキアゲジャパン理事の松本丈さん。今年度はマイブレイスづくりを実施されている方を訪問する移動講座も予定しています。常磐地区でのまちづくりに興味のある方、マイブレイスづくりをしたい方、一緒に学びませんか？

開催概要

◆開催時間:10:30～12:00 ◆開催場所:あとち集会所

7月13日① オリエンテーション(終了)

8月10日② 読書会「まちの未来はこの手でつくる」

9月21日③ 読書会「マーケット感覚を身につけよう」

10月19日、11月18日、12月7日、1月18日、2月15日の内容は検討中です。

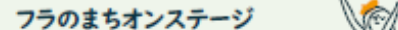
※参加には申込みが必要です。

※指定の課題図書を読んでレポートを事前に提出していただきます。

お問合せ:じょうばん街工務21事務局

TEL 0246-43-2757(平日AM10:00～PM3:00)

mail info@machi-kobo.com



フラのまちオンステージ

今年も鶴のあし湯にて「フラのまちオンステージ2023」が開催されています。

フラ女将と仲間たちと踊って盛り上げられる地元手作りのステージには、これからの「いわき湯本」のまちづくり、まちをみづくりにヒントがたくさん。

夏祭りの季節が到来!月に一度は、心地よいワイイアンミュージックに癒されてください。

開催予定	今後の予定
7月22日(土)	7月22日(土)
8月19日(土)	8月19日(土)
9月16日(土)	9月16日(土)
10月21日(土)	10月21日(土)
開催時間	17:30～20:30
開催場所	鶴のあし湯

編集後記

湯本生まれ、湯本育ちの自分にとって、これぞ湯本温泉というものは身近で当たり前のものだと感じてきました。かつて石炭を産んだ湯本は温泉地として知られ、一時は街並みも色気もあっていました。そんな湯本という温泉地が、湯本の温泉地が温泉地として知られ、湯本を守った人たちの取り組みなども、改めて思いをめぐらせています。

湯本には、なんでも、自分たち自身で気づいていないかもしれませんが、他のどこの街にもない、温泉に似た温かさと魅惑的な人が溢れていて、温泉×本×文化を掛け合わせた、他のどこの街にもない魅力的な街が立ち上がるのではないかと思います。本×湯本というのには、湯本、そこにフラスターとスポーツ文化もあるのですから、湯本、素晴らしい。

市内、県内各地の出店者の数も増えていますが、茨城、宮城、山形、東京、千葉、長野など県外からの常連出店者は「湯本」という街と人が好きで、毎回開催の前夜に温泉や宿泊、観光を楽しめるのを楽しみにしています。

「令和5年度福島県地域創生総合支援事業」採択事業 市営住宅天王崎団地跡地 暫定利活用プロジェクト

いわき市とじょうばん街工務21は常磐地区の市街地の再生に向けて、常磐地区市街地再生整備基本方針に基づき、市営住宅天王崎団地跡地における利活用事業に賛同し、令和4年2月に基本協定を締結しています。

TOPIX

トピックス

本とふれあう、と、
いわき街なか一箱古本市のコラボを終えて



本好きの方は基本的に、個人活動が好きでインディーズ系が多いです。自分が好きな本のことを白星堂と語りあうのも、ありません。そして、本を売りたいという気持ちもありません。

2016年6月、福島県の浜通り地方で初めて「いわき街なか一箱古本市」を、もうひとりの実行委員・末永さんと一緒に開催したとき、いわきの本好きの方々が一度や二度、「本」をネットに集めて思い思いに交流し、笑顔になれる場所があればと思って始めました。やるからは、10年は続けるつもりでした。

「一箱古本市」は、2005年に東京は中目黒・千駄木で行われた「不忍ブックストリートの一箱古本市」が発祥とされ、みかん箱一箱ほどの箱に自分が好きな本を詰め込んで街なかの歩道や神社などのスペースに出店し、1日限りの古本店主として、お客さまとのふれあいをしながら古本を売る、という催し(というよりコミュニケーションシステム)が全国各地で行われています。出店者は売場ややっているプロもあれば、素人もある。好きな本の販路が広がった、僕初体験もまた楽しみのひとつです。そして来た人に「街」の魅力を知ってもらうことも「一箱」の大きな役割です。

いわき街なか一箱古本市は、最初、地元の方に理解していただくのに苦労しました。出店者は県外の方が多く、いわきの方に「一箱」のことを理解していただき、出店していただくには、何かハードルの高さがあっていました。告知や集客も、最初の何回かはハラハラドキドキの連続でした。でも、県外からの常連出店者の方が、さまざまな趣向を凝らした品揃えで出店されているのを見て、地元の方々も「たのしそう!」自分もやってみたい!という思いが、出店数が増えていきました。

目標は2020年、湯本駅前Akiを「本街」とするようになってからです。出店者の募集は開始から数日間で締切になり、派手な告知をしなくても、春秋、年に2度の「一箱」の開催を楽しみに待つてくださる方が増え、湯本の方に温かく迎え入れられ、応援していただいているという感覚をひしひしと感じました。コロナ禍に開催した時も、皆さん喜んで来てくださいました。会場のすぐ近くにはミニシアターと2番店Kuramotoさんがあって、いつもコラボ企画を考えてくださるのも大きいです。

市内、県内各地の出店者の数も増えていますが、茨城、宮城、山形、東京、千葉、長野など県外からの常連出店者は「湯本」という街と人が好きで、毎回開催の前夜に温泉や宿泊、観光を楽しめるのを楽しみにしています。

あとちかわら版 2023.11月号

《発行》
じょうばん街工務21
〒972-0321 いわき市常磐地区市街地再生整備基本方針
いわき市常磐地区市街地再生整備基本方針
TEL 0246-43-2757 FAX 0246-43-2760
http://machi-kobo.com/

本とふれあう、と、
いわき街なか一箱古本市のコラボを終えて

きで、毎回開催の前夜に温泉や宿泊、観光を楽しめるのを楽しみにしています。

この秋の「一箱」に合わせて、じょうばん街工務21さんが、あとちで「本とふれあう」というイベントを開催されると聞いたとき、今までの自分たちの活動が報われたと思うと同時に光栄なことだと感じました。

当日のあとちの光景は忘れられません。市立図書館は約20年ぶりにイベントに「移動図書館」を出展しましたが、何より職員の方々が嬉しそうでした。ふだんの移動図書館は滞在十分単位で貸だしく次の会場に移動しなければならぬのに、今回はじっくり読書して利用者と交流ができた。常磐図書館や内閣図書館のスタッフさんも自主的に様子を見に来ていました。総合図書館の武井館長がニコニコしながら「みんな、こういうことをやりたいんだよね」とおっしゃっていたのが印象的でした。

市立図書館が出展するのなら、芸術文化もこの空間に参加しないわけにはいかない。私の職場いわき芸術文化交流館アリオスの増設の拡張西重堂美術館・グッド・アート・センターにも出展してもらいました。屋外で、第一ファシリテーターの三上先生を招きスラヴィア・ワグスが気持よくさよならに響くことに響くこと、演奏を聴くために来た人、本をめぐりながら読者、キッチンカーから供された食事を振舞いながら読者、あとちに買付けられた土産物やいわきお土産なども、など、思い思いの時間を過ごされている多様な光景が見られたのが嬉しかったです。一箱古本市の出店者も、店番そっこので、あとちにおそひに来ていました。カワルデットのリーダ・丸山孝雄さんも「皆さん、集まってきてくれて嬉しかった。こういう空間で演奏することは、ホールで演奏するのと同じくらい大事とおっしゃっていました。」

湯本駅前はこのあと再開が迫り、図書館機能やホール機能を有する複合施設が建設されると聞いています。今回Akiの「いわき街なか一箱古本市」と、あとちの「本とふれあう」にもない空き地空間に「本」をキーワードとしたいろんな人の知恵が結集されて、多世代の多様な交流が生れたことは、未来に向けた大きな一歩、夢のスケッチができたのではないのでしょうか。

湯本には、なんでも、自分たち自身で気づいていないかもしれませんが、他のどこの街にもない、温泉に似た温かさと魅惑的な人が溢れていて、温泉×本×文化を掛け合わせた、他のどこの街にもない魅力的な街が立ち上がるのではないかと思います。本×湯本というのには、湯本、そこにフラスターとスポーツ文化もあるのですから、湯本、素晴らしい。

市内、県内各地の出店者の数も増えていますが、茨城、宮城、山形、東京、千葉、長野など県外からの常連出店者は「湯本」という街と人が好きで、毎回開催の前夜に温泉や宿泊、観光を楽しめるのを楽しみにしています。

市長 長嶋 人(いわき街なか一箱古本市実行委員)

プロジェクトの成果

芝張りワークショップやランタンづくりワークショップでは多くの親子が参加し、楽しみながら地域の活動につながる場を作ることができました。

また、あとし集会所の図書スペースの整備やあとし広場のあそび場づくりは、小さな子供から高校生の居場所をつくれただけでなく、観光客が過ごす姿も見られ、思いがけない効果もありました。

まちづくり勉強会や街づくりワークショップ、図書館学びのプログラムでは、若い世代を巻き込みながら立場・世代を超えて対話をすることで、まなび合いが生まれ、多くの気づきがありました。

かわら版やSNSを通した情報発信、フューチャーセンターでの展示などで、地域の人が常磐地区のまちづくりの現状を知り、地域の意見交換の場などへの参加へつながったと考えています。

課題と今後の方向性

このように一定程度の成果はありましたが、現状ではそれらの効果は単発に終わっていて、次につながる好循環を生み出すところまでは至っていないのが現状です。

参加・関心からステップアップして学び・実践へとつなげていくには、これらの取組を継続的に行いながらも、個人個人へのフォローをしていくことと、より効果的な情報発信や参加しやすい対話の場づくりが必要であると思われます。

来年度以降は常磐地区市街地再整備計画の進捗状況に合わせながら、フェーズごとに最も必要な場づくりを多く開催し、誰もが参加しやすいよう発信の仕方を工夫していきます。また、さらに関心の裾野を拡げるために、より広く、深く伝わる情報発信の方法を検討していきたいと思います。